



学校だより

2月号

平成30年1月31日

横浜市立洋光台第三小学校

校長 皆川 誠

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai3/>

「10,000」目指して

副校長 山之井 浩

暦のうえでは春の訪れも間もなくですが、つい最近も大雪が降るなど、まだまだ寒い日が続いております。保護者の皆様には、先週の「学校へ行こう週間」に多数のご来校をいただくなど、教育活動へのご支援・ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、1月には全国で、数々のスポーツイベントが開催されました。その中でも、私は特に、箱根駅伝の青山学院大学の4連覇と、大学ラグビーでの帝京大学の9連覇が「偉業」だと思っています。

以前、私はある学校長から、次のような話を聞いたことがあります。

何かの出来事に刺激を受けた時、「これをやりたいなあ」と考える人が100人いたとすれば、実際に始める人は1人だそうです。さらに、始めた人が100人いたとして、それを長く続けられる人は、やはり1人だということです。つまり、何かを長く続けられる人は、10,000に1人ということになります。

明日でもあさってでもできることは、いつでも始められるし、いつでもやめられる。このある意味の自由さが、「始める」ことを遅らせたり、「続ける」ための意欲を萎えさせたりしてしまうのだと思います。意欲をすぐさま行動に結び付け、強い気持ちで継続させていくことが、10,000分の1になるために必要となるのです。

また、「10,000」という数には、別の意味が隠されています。

世界的コンクールで優勝するピアニスト、将棋や囲碁の名人、オリンピックやワールドカップ等で活躍するトップアスリートなど、芸術やスポーツの世界ですばらしい実力を発揮する人々がいます。そのような人々の多くが、ある特殊な時間を共有していることが、調査の結果、明らかになっているのです。それが、10,000時間。

10,000時間といえば、1日に3時間練習したり、レッスンを受けたりするとして、1年でおよそ1,000時間。それを休まずに10年間続けるということです。その努力の積み重ねがあって、初めて一流の仲間入りができるのです。

長く遠い道のりも、まずは始めの一步からです。

子どもたちが最初の一步を踏み出せるよう、そして継続できるよう、学校では支援してまいります。保護者や地域の皆様におかれましても、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。